

# 懇談会の経緯

第6回懇談会までに延べ約650人の住民参加がありました。



第1回WG (H15.10.2)

第2回WG (H15.11.6)

タウンミーティング アンケート (H15.12)

第3回WG (H16.1.15)

第4回WG (H16.2.5)

第5回WG (H16.3.11)

第6回WG (H16.4.15)

第7回WG (H16.5.18)

第8回WG (H16.6.9)

第9回WG (H16.6.14)

第1回懇談会 (H15.10.15) 94名参加

第2回懇談会 (H15.11.20) 44名参加

第3回懇談会 (H16.1.29) 99名参加

第4回懇談会 (H16.2.19) 126名参加

第5回懇談会 (H16.5.28) 149名参加

第6回懇談会 (H16.6.9) 141名参加

提言書作成!

みちづくり懇談会の進め方の説明を行い、承認をいただきました。

参加者全員にルートを描いていただきました。

6案を3案に絞り込むWG提言が承認され、絞り込まれたA~C案のご意見をいただきました。

B案とC案は、C案が優位とのWG提言が承認され、その後、A案とC案について多数の意見をいただきました。

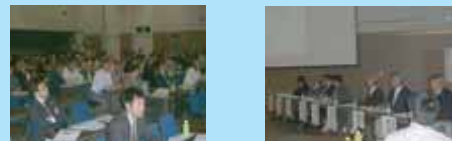
C案をルート案とするWG提言が発表されましたが、絞り込みに向けて議論が続きました。

懇談会としてひとつの結論が出されました。提言ルートは次のページで!

地域の発展と能登の自然にやさしみちづくりを!

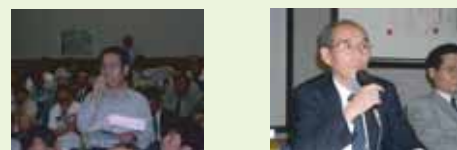
第1回はP1手法への理解を深めていただきました。質疑応答で発言された内容は以下の通りです。

- ☆地域の自然環境を大切にしたいルートとして欲しい。
- ☆経済効果を発揮できるルートとして、和倉温泉へ行きやすいルートにして欲しい。
- ☆できるだけ早く開通できるルートにして欲しい。
- ☆出来るだけ建設費が安いルートにして欲しい。



第1回懇談会の様子

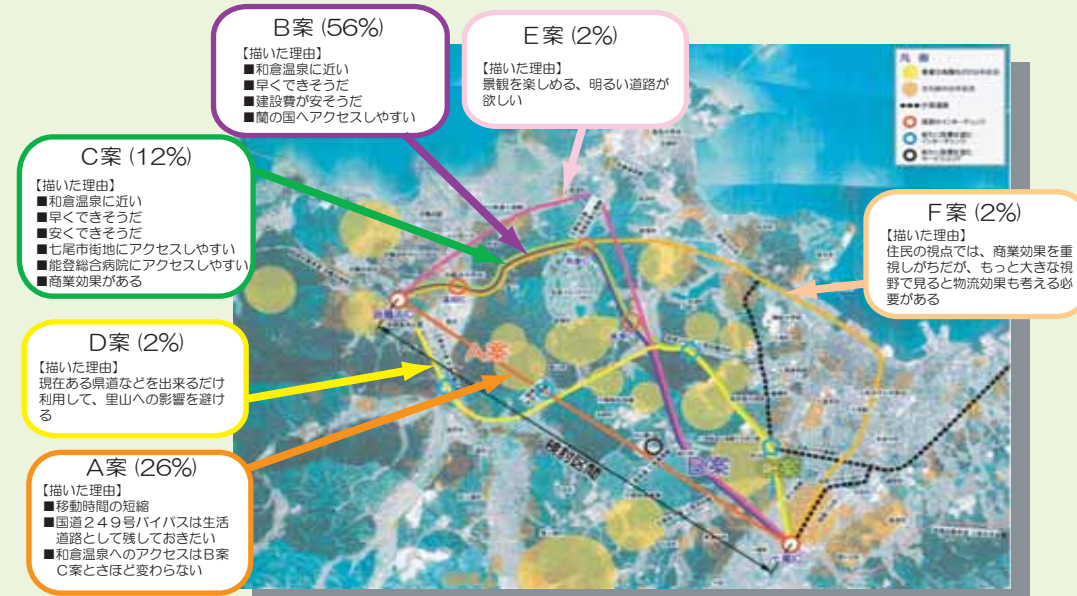
- A案 田鶴浜ICと七尾ICを最短で結ぶルート
- B案 国道249号バイパスを利用するルート (田鶴浜ICから七尾IC間は自然への影響をできるだけ避けたルート)
- C案 国道249号バイパスを利用するルート (田鶴浜ICから七尾IC間は難関バイパスに近いルート)
- D案 高階地区を通るルート
- E案 海側を通るルート
- F案 七尾港を通るルート



第2回懇談会の様子

第2回では、参加者を9グループに分け、全員に望ましいと思うルートとその理由を記入していただきました。

その結果、下図の6ルートに集約されました。このうちA~C案が多数を占めました。



※各案のパーセントは第2回懇談会でご意見が占めた割合です。

☆全6案についてWGで検討した結果「D~F案は事業費が高く非現実となるためA~Cの3案に絞り込む」という提言を懇談会で示し、満場一致で承認されました。

☆その後、A~C案について質疑応答を行った結果、意見は全線新設となるA案と、バイパスを利用するB・C案に大きく分かれました。

☆最後にWGメンバーから「3案を1つに絞り込む前にはまずB・C案を1本化したい。WGにお任せ願いたい」との提案があり、満場一致で承認されました。



第3回懇談会の様子

☆B・C案についてWGで検討した結果「C案が事業費、事業期間、環境や民家への影響面からB案より優位」という提言を懇談会で示し、満場一致で承認されました。

☆その後A案とC案について質疑応答を行いました。意見はA案とC案に大きく分かれました。

☆最後にWGメンバーから「結論を立つには議論が不十分。今後もA案とC案について話し合いが必要。今後の進め方について一旦WGで調整したい」との提案があり、満場一致で承認されました。



第4回懇談会の様子

☆A・C案についてWGで検討した結果、**地域経済の活性化、自然環境、事業費、事業期間、家屋移転、地域交通への影響**などの面から、「高速道路本来の機能より、観光振興を中心とした地域経済へのメリットや能登の自然を後世に残すことなどを優先し、C案をワーキンググループの総意とする。」と発表しました。

☆A案とC案における長所・短所等の意見はいただきましたが、両案のどちらかに歩み寄るような意見は出されず、結論は次回に持ち越されました。



第5回懇談会の様子



第6回懇談会の様子

☆WGメンバーがC案に至った背景を語りました。

能登地方の人口減少問題に対する地域活性化と救急救命時における七尾市の存在から道路の在り方はC案が望ましい。今後の計画などにおいてもきちんと住民の意見を取り入れることを約束します。

目的地に早く着く道路ではなく、能登地域の観光資源を生かした立ち寄り型のみちづくりからC案が望ましい。

バイパスを活用した場合でも利用者の安全性は確保されるということと能登地域全体のことを考えると早期開通が重要であるという2点からC案が望ましい。

☆「C案を軸にして、これまでの皆さんの意見を今後取り入れながらみちづくりを図っていくように国土交通省に要望する。」という結論がWGから提案され、満場一致で承認されました。

☆事務局を代表して、国土交通省 金沢河川国道事務所 調査第二課長から、「様々なご意見があったことや提案された当該道路へのアクセス道路を、きちんと整備して欲しい。」という要望があることを関係当局に責任をもって伝えることを、住民の皆さんに約束して、閉会となりました。